

## 夏期管理について

7月に入り、本格的な夏が近づくとつれ、気温の高い日も増えていきます。しっかりと休養を取り体調には十分に気を付けて作業を行って下さい。

### ■ 水稻の斑点米カメムシ類対策について

昨年は斑点米カメムシ類による落等米が発生しました。耕種的防除で発生密度をさらに下げましょう。

○カメムシ類の発生密度を下げるため、常日頃から畦畔・農道などの草刈り及び水田内の除草対策を徹底する。

○出穂間近の草刈りはカメムシ類を水田に侵入させるので、草刈りは7月20日頃まで行い、その後無人ヘリ防除が終了する8月下旬（8月20日頃）まで行わない。

### ■ さくらんぼ収穫後の管理

○収穫終了後は被覆資材を除去し、褐色せん孔病等の防除を雨が当たる前に実施しましょう。

○雨よけテント内は、長期間の被覆により土壌が乾燥した状態になっているため、被覆資材除去後に雨が少ない場合は、十分にかん水を行う。

○お礼肥は収穫終了後すぐに施用しましょう。施用量は年間施用量の約5～10割を目安に樹勢の強弱や葉色を判断し量を加減する。「紅秀峰」は、他の品種よりも樹勢が低下しやすいので、礼肥の比率を高める。なお、施肥後降雨が少ない場合はかん水を行い、根の吸収を促す。

新梢の伸び、着果量、葉色を目安に施肥量を加減しましょう。		
以下（短い） 多い	← 新梢長が25cm程度 着果量の多少 →	以上（長い） 少ない
施肥量 <b>増</b>	わかみどり（磷硝安加里 S248） 1～2袋/10a ノルチツソ 1～3袋/10a さくらんぼ有機一発80 6袋/10a のいずれかを施肥	施肥量 <b>減</b>

※ 礼肥としてわかみどり、ノルチツソを施肥した場合は、次年度の果実品質

を良くするため9月上中旬に王将有機80等の基肥を施肥してください。

## ■りんご、西洋なし、もも、の修正摘果と徒長枝管理

○りんごや西洋なしは修正摘果を行いましょ。摘果は、サビ果・奇形果など商品価値が劣るものを落とす。りんご「黒星病」がみられる園地では、発病果を摘除し、集めて適切に処分して下さい。

○ももは、核割れ果や生理落果の発生を防ぐため、硬核期が終了するまで摘果・新梢管理を控える。今年の硬核期は、7月上中旬に終了すると予想されま。7月中旬以降、核の硬化を確認し仕上げ摘果や新梢管理を行って下さい。

○7月は、新梢が繁茂し最も日当たりが悪くなる時期である。日当たりを良くし、防除薬剤の到達を良くするため、徒長枝管理を行いましょ。ただし、日焼け防止や樹勢維持のため、切り過ぎに注意する。

## ■ふれあい営農センター情報

除草剤をお求めやすい価格に見直しました。

ぜひ、ふれあい営農センターにお立ち寄りください。

ラウンドアップマックスロード 500ml ¥1,980 (税込)

ラウンドアップマックスロード 5.5ℓ ¥12,800 (税込)

バスタ液剤 500ml ¥2,050 (税込)